

観世九臈会

かんぜきゆうこうかい

八月 定例会



令和3年8月8日(日)
於 矢来能楽堂

【第1部】12:30開演(12:00開場)
14:10終演予定
—客席入れ替え—

【第2部】15:00開演(14:30開場)
17:00終演予定

※新型コロナウイルス等の感染防止の観点より、当面の間、公益社団法人能楽協会の「能楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」、ならびに公益社団法人全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って公演を開催いたします。

新型コロナウイルスの感染状況や行政機関などによる指示、各種ガイドラインの変更・更新等に伴い、内容に変更がでる場合がございます。最新情報は矢来能楽堂ホームページや公式ツイッターなどでも随時お知らせいたしますので、ご来館時などには必ずご確認くださいませようお願いいたします。

主催：公益社団法人 観世九臈会



文化庁文化芸術振興補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

感染予防にご協力をお願いいたします。

◆ ご来場の際のお願い

- ・体調不良の方は、当日でもご来場をお控え下さい。
- ・ご入場の際は必ずマスクを着用ください。
- ・入口にて手指のアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- ・37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。(上記にご協力いただけない方には、ご入場をお断りいたします。)
- ・上記にて入場不可となった方へは、ご事情を伺った上で、払い戻しをさせていただきます。チケットを半券ともにご保管の上、ご連絡下さい。

◆ 会場内でのお願いなど

- ・喫茶室は閉室しております。会場内でのお食事はご遠慮下さい。
- ・場内のウォーターサーバーは、使用停止とさせていただきます。
- ・水分補給のためのお飲み物は、ご持参ください。
- ・ブランケットの貸出は当面いたしません。
- ・換気のため、お席によっては空調が強くとどろきがございます。ご自身にて上掛け等をご持参ください。
- ・出演者へのご面会、お差し入れは当面の間、ご遠慮ください。
- ・矢来能楽堂のお手洗いは数が大変に限られております。なるべくご来場前にお済ませ頂き、ご利用の際は間隔をあけてお並びください。

◆ 上演にあたってなど

- ・上演中も、マスクの着用をお願いいたします。
- ・舞台上も出演者の感染予防対策を講じた形式での上演とさせていただきます。
- ・公演の前後および休憩中には外気を入れ、会場内の換気をいたします。
- ・場内換気のため、上演中もロビーとの扉は開けさせていただきます。
- ・1部、2部の入替時に館内消毒作業をいたします。
- ・1部、2部とも続けてご覧になる方も、一旦退館をお願いいたします。
- ・万一、来館者ならびに出演者・スタッフに感染が疑われる者が後日、発生した際は、所轄の保健所へご来場者様情報を提出させていただきます。

このほか、矢来能楽堂ホームページにて、「矢来能楽堂における感染予防措置」をご確認の上ご来場ください。

皆様の健康と安全を第一に考えております。

皆さまにはご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

矢来能楽堂・公益社団法人 観世九臈会

全指定席(各部)

正面席 5,500円 / 脇正面・中正面席 4,400円

学生券(脇正面・中正面) 2,200円 ※学生券は26歳未満(要学生証)未就学児入場不可

1部2部通しセット(脇正面・中正面のみ) 7,800円

【お申込み・お問合せ】

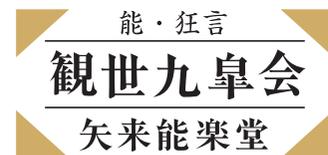
矢来能楽堂・観世九臈会

電話：03-3268-7311

FAX：03-5261-2980

メール：yarai@eos.ocn.ne.jp

http://yarai-nohgakudo.com/



【注意事項】

- ・記載の演目・演者等はやむを得ない都合により変更になる場合がございます。
- ・許可のない録音・撮影は一切禁止です。
- ・携帯電話は電源からお切りください。
- ・演能やほかのお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場していただく場合がございます。

表紙写真「中将」撮影：青木信二

ご注文・問合せ
 (株)能楽書林 九段下駅徒歩すぐ
 〒103-8326 東京都千代田区九段下1-10-8 4F
 TEL 03-3264-0846
 FAX 03-3264-0847
 メール shonin@mercury.plala.or.jp

柳沢新治著
 『横からみた能・狂言』
 長年、NHKの能楽放送に携わった著者が著した、現場ならではの「放送うらばなし」をはじめ、能の歴史をひもとく「能の歴史」、心に残る人々との思い出の随想「出会いと別れ」、能をモチーフとした推理小説「能舞台の目撃者」など、バラエティに富んだ内容を一冊にまとめた好読物。
 四六判・二三頁
 本体二〇〇円十税

能楽書林
 権藤芳一著
 『能楽手帖』
 簡潔な解説で携帯にも便利な能楽鑑賞事典。見聞き一曲で、上演頻度の高い一三〇曲を厳選して収録。曲ごとに、あらすじ・みどころ・作者・素材・各流の小書きなどが書かれ、観能の手引きに最良の書。巻末に用語解説も付す。
 新書判・三〇二頁
 本体一四〇〇円十税

観世九臈会 八月定例会

令和三年八月八日(日) 於 矢来能楽堂

【第一部】 十二時三十分開演 (正午開場)

番組

シテ 観世喜正
ワキ 森 常好
大鼓 安福光雄 太鼓 小寺真佐人
小鼓 観世新九郎 笛 八反田智子
能 融
思立之出
舞返 Tori 野村拳之介

後見 長山耕三
永島忠修
桑田貴志
小島英明
地謡 佐久間二郎
坂真太郎

(終演予定 午後二時十分)

八月定例会【第一部】の能は、お客様のリクエストの中から、最多でご希望を頂いた曲「融」に決定いたしました。たくさんのリクエスト、誠に有難うございました。

【第二部】 午後三時開演 (午後二時三十分開場)

番組

経 正 観世喜之
仕舞 芭 蕉 駒瀬直也
鐘之段 キリ 中森貫太

石井寛人
鈴木啓吾
地謡 奥川恒治
永島 充

附祝言

(終演予定 午後五時)

狂言 宗 八

シテ 野村万蔵
アト 能村晶人
小ト 野村万之丞

後見 野村拳之介

休憩十分

(午後四時頃)

母 中森健之介
トモ 金子仁智翔
トモ 奥川恒成
五郎 河井美紀
シテ 新井麻衣子

能 小袖曾我

Kosodesoga

問 河野佑紀

大鼓 佃良太郎
小鼓 古賀裕己
笛 寺田林太郎

後見 中所宜夫
弘田裕一

地謡 遠藤喜久
遠藤和久
鈴木啓吾

能 融

とわる

秋の名月の日、六条河原院を訪れた僧の前に、自らを汐汲と称する老人が現れる。海辺でもないのにと訝しむ僧に、ここは昔左大臣源融が陸奥の手賀の塩竈の景色を模してつくった所であるから汐汲と言うのは当然だと答え、融の死後相続する人がおらず荒れ果ててしまったと語る。さらに老人は僧に辺りの名所を教え、汐を汲む姿を見せると、そのまま汐曇りに紛れて消える。

仮寝する僧の夢の中に融が在りし日の姿で現れる。愛着の深い河原院で舞を舞い、夜明けとともに月の都に帰っていった。

狂言 宗 八

ソウ はち

最近まで料理人だった僧と、還俗して料理

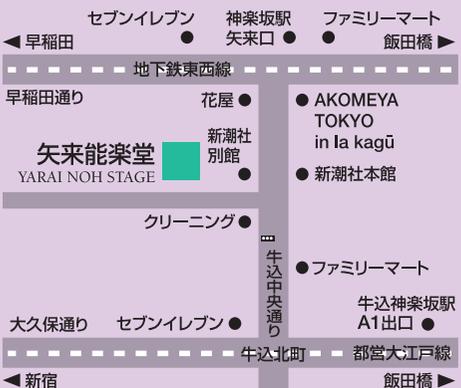
人になつたばかりの宗八は、仕事を得るもやり方がわからない。二人は主人のいない間に互いの仕事を交換することにする。僧が巧みに魚を捌き、料理人が朗々とお経を読むというおかしな光景が繰り広げられる。

能 小袖曾我

こそでそが

曾我十郎祐成と弟の五郎時致は、源頼朝が主催する富士の巻狩に乗じて父の仇である工藤祐経を討とうと志す。事の成否にかかわらず命はないと考えた兄弟は、母に時致の勘当を解いてもらい最後の暇乞いをするため、母の元へ向かう。頑なに勘当を解かない母に、祐成は親子の情を訴えかける。終に泣く泣く立ち去る兄弟に、母は堪らず勘当を解くと言い渡す。兄弟は喜びの舞を舞い、名残惜しくも富士へ赴くのであった。

兄弟の息の合った相舞が見どころの一つ。



162-0805 東京都新宿区矢来町60

地下鉄東西線神楽坂駅 矢来口より徒歩2分 都営大江戸線牛込神楽坂 A1出口より徒歩5分 駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。